

授業科目名	経済統計	学 年	2 年	単位数	4	開設期	後期
担当教員	河田 正樹	指 定	選択	備 考			

授業のねらい・概要		
新聞紙上では、完全失業率、消費者物価指数、景気動向指数、国内総生産(GDP)などといった経済データが連日のように記事となっています。この講義では、経済データの成り立ちや経済データを用いた簡単な分析を学び、日本経済や世界経済についての理解を深めるとともに、経済諸現象のデータを用いた分析をおこなうための基礎をやします。		
学習の到達目標		
経済データの作成方法・特性を学ぶことによって、新聞の経済記事を理解できるようになります。経済諸現象について実証分析をおこなうための、データに関する基礎知識を得ることができます。		
授業全体のすすめ方・指示事項		
PowerPoint のスライドを用いた講義をおこない、講義の最後に練習問題をおこないます。スライドはハンドアウトを配布するとともに講義用 HP に掲載するので、必要に応じて参照してください。 実際のデータとその分析例の紹介を積極的におこないますが、時間の制約上限りがあります。講義時間外に、関連する機関の HP にあるデータを見るようにしてください。 関連する新聞記事のコピーを適宜配布し、解説します。		
授業計画		
第 1 回 ガイダンス	第 16 回 中間試験	
第 2 回 日本の統計制度	第 17 回 中間試験の解説	
第 3 回 全数調査と標本調査(1)	第 18 回 物価指数(1)	
第 4 回 全数調査と標本調査(2)	第 19 回 物価指数(2)	
第 5 回 人口に関する統計(1)	第 20 回 物価指数(3)	
第 6 回 人口に関する統計(2)	第 21 回 物価指数(4)	
第 7 回 人口に関する統計(3)	第 22 回 物価指数(5)	
第 8 回 人口に関する統計(4)	第 23 回 時系列データ(1)	
第 9 回 労働に関する統計(1)	第 24 回 時系列データ(2)	
第 10 回 労働に関する統計(2)	第 25 回 景気指標(1)	
第 11 回 労働に関する統計(3)	第 26 回 景気指標(2)	
第 12 回 家計に関する統計(1)	第 27 回 景気指標(3)	
第 13 回 家計に関する統計(2)	第 28 回 国民経済計算(1)	
第 14 回 家計に関する統計(3)	第 29 回 国民経済計算(2)	
第 15 回 家計に関する統計(4)	第 30 回 まとめと復習	
成績評価の方法		
期末試験に加え、中間試験、レポートの合計点で評価をおこない、出席状況を若干加味します。		
成績評価の基準		
成績評価の項目	具体的な内容と方法	評価割合(%)
定期試験(期末試験)	試験期間に期末試験を実施します。	50
レポートや提出作品の評価	レポートを 2,3 回予定しています。	25
平常点評価 (小テスト、発表、グループ作業の成果、授業態度、出席状況)	出席状況、授業評価の回答状況などに応じて若干の加点・減点をおこないます。	加点・減点
その他(中間試験)	中間試験を実施します。レポートに代えることもあります。	25
合計		100

教科書	使用しません。講義スライドのハンドアウトを配布します。
参考書・指定図書等	佐竹 元一郎 編著『経済の統計的分析』中央経済社 3150 円 廣松 毅 ほか『経済統計』新世社 2940 円 中村 隆英 ほか『経済統計入門(第 2 版)』東京大学出版会 3045 円
メッセージ	講義用 HP(http://www2.tokuyama-u.ac.jp/kawada)には、詳しい成績評価基準や、講義中に十分説明しきれなかったデータなど、有益な情報が数多く掲載されています。積極的に参照してください。 データの面から日本経済をながめてみましょう。